

営業スキル向上勉強会(#5)

2016年10月21日

書籍タイトル：鍵山秀三郎 「一日一話」

～人間の磨き方・掃除の哲学・人生の心得～

今回この本を読んだ目的、きっかけ：

人間の磨き方、人生の心得というサブタイトルを見て、人生これからの自分の勉強にしようと思った。

概要：

戦時中の食料のない貧しさの中を生き抜いた著者は、自分の信念としてトイレ掃除を徹底して続け、「誰にでもできることを誰にも出来ないくらい続けてきた」ことによって、現在のイエローハットをあそこまで大きくした。「簡単なこと」「単純なこと」を決しておろそかにせず、人が捨てたものを拾い上げ、価値を見出す努力をした生き方の中で得たことを一日一話形式でまとめ上げた書籍。

参考にしたい点、気になる点

1. 5月29日「掃除の不思議な力」

掃除をすると社風が変わる。たとえ厳しい状況にあっても社員の表情が明るく生き生きとしてくる。人によっては、見違えるほど良い人相になる。

当然、家族や周囲の方々に気を使うようになり、性格が穏やかになる。

掃除には、ただ単に周囲をきれいにするだけでなく、人間を根底から変える力がある。

私自身、当社に入社してまず最初に感じたのが、どの先輩や上司の方々も「穏やかで温かい」という印象だった。そういう社風である一つの要因としては、どの社員の方々もまじめにしっかりと掃除に取り組んでいるからかもしれない。

2. 10月25日「水急にして月流さず」

急流に月が映っている。川の流れがどんなに早くても、月は流されることが無い。

月は平然と映ったままである。

つまり、自分を取り巻く環境がどんなに激変しても、自分の信念さえしっかりしていれば、環境に流されることはないという意味。

さまざまな問題にぶつかり心が動揺するようになるときに、この言葉を思い出すようにし

よう。

営業スキル勉強会(4)の「苦難を楽しんで乗り越える」の格言と内容としては似ているが、こちらはどんな環境に置かれても動じない強い精神を持つと言っているように感じた。私のこれからの長い人生の中でいくつもの苦難にぶつかることはあると思うが、自分の心の芯をしっかり持ち、乗り越えていきたい。

3. 12月3日「平凡なことをおろそかにしない」

簡単なこと、単純なこと、単調なことをおろそかにしない。

やれば誰でもできる平凡なことを徹底し、その中で差をつける。

そんな信念を持って、著者は今まで生きてきた。普通、簡単なことは馬鹿にされたり、軽くあしらわれがちだ。しかし、そういう生き方をしていると結果的に人生をおろそかにする人になる。

まさにその通りだと感じた。例えば、勉強に関して、基礎をおろそかにすれば、応用の問題は解けなくなる。また、スポーツに関しても同様に、野球選手の松井秀喜は素振りを大切に、毎日欠かさず素振りをしていた。その積み重ねがメジャーリーグ入りである。

これは一般的な社会人にも当てはまる。

どんなに小さな仕事でも簡単だからと手を抜いたり、気を抜いて取り組むべきでない、また、逆にどんなに大きな仕事でも少しくらい良いだろうと手を抜いたりしてはいけないと思った(当たり前のことである)。

感想

1つのお話が半ページでまとめられていて非常に軽い気持ちで読むことが出来た。また、同じ内容でも別の視点から書かれていて面白いと思うところがあった。

人が当たり前に行っているささいなこと、簡単なことに関して手を抜いているか、全力で行っているかで、その他のことに対する姿勢も変わってくるということがこの書籍を読み、よく分かった。

結局、何事にも手を抜いたりしないで、常に全力で取り組んだ方が最終的に自分の成長につながるし、完成したものの完成度も高くなるだろうし、自分にとって良いことばかりであると感じた。